

# 平成30年度 第2回新居浜市地域公共交通活性化協議会

## 次 第

○日時 平成31年1月23日(水) 13:30～

○場所 新居浜市役所 3階 応接会議室

### 1. 開 会

### 2. 協議事項

(1) 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業(平成29年10月～平成30年9月分)の事業評価(案)について

(2) 平成29年度地域公共交通バリア解消促進等事業(バリアフリー化設備等整備事業)の事業評価(案)について

(3) その他

### 3. 閉 会

新居浜市地域公共交通活性化協議会委員名簿

条項		役員	機関・団体	役職名	氏名
法第6条第21号	規約第5条第11号	会 長	新居浜市	副市長	寺田 政則
				経済部長	鴻上 浩宣
法第6条第22号	規約第5条第12号		新居地区旅客自動車協同組合	代表理事	渡部 光男
			愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	田所 秀志
			瀬戸内運輸株式会社	専務取締役	門田 正孝
			愛媛県バス協会	専務理事	稲荷 和重
			四国旅客鉄道株式会社	愛媛企画部長	窪 仁志
	規約第5条第13号		愛媛県東予地方局建設部	建設企画課長	岡野 準
			国土交通省四国地方整備局 松山河川国道事務所	副所長	森本 英二
法第6条第23号	規約第5条第14号		新居浜警察署	交通課長	玉田 晃雄
		副会長	新居浜市連合自治会	理事	星加 勝一
	規約第5条第15号		新居浜市老人クラブ連合会	事務局長	三木 博喜
			新居浜市女性連合協議会	会員	今村 美鈴
		監 事	新居浜市社会福祉協議会	次長	越智 千鶴子
	規約第5条第16号	監 事	新居浜商工会議所	産業創出課長	矢野 英司
			新居浜市医師会	理事	永易 大典
			瀬戸内運輸労働組合	執行委員長	砂田 篤志
			愛媛県東予地方局総務企画部	地域政策課長	中川 美奈子
			国土交通省四国運輸局 愛媛運輸支局	首席運輸企画 専門官 (輸送・監査)	谷本 昌啓
		首席運輸企画 専門官 (総務・企画観光)		山本 充一	

事務局

事務局長	新居浜市経済部運輸観光課	課長	宮崎 司
事業担当	新居浜市経済部運輸観光課	副課長	菅 裕二
事業担当・出納員	新居浜市経済部運輸観光課	係長	二宮 由佳

**協議事項（１）平成30年度地域公共交通確保維持改善事業（平成29年10月～平成30年9月分）  
の事業評価（案）について**

別添 1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成31年1月 日

協議会名：新居浜市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名：(株)東雲タクシー 運行系統名：川東エリア	川東エリア	利用者数維持のため、広報活動や出前講座といった説明会を積極的に実施したことで利用者数の維持につながった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	平成29年10月から30年9月までの一日当たりの利用者数は、64人の目標に対し73.4人、一台当たりの利用者数は2.3人の目標に対し2.3人、運行率は60%の目標に対して74.3%であり、計画に位置付けられた目標を達成している。	利用者数を維持していくため、積極的な広報を行う。また、使いやすい持続可能な公共交通網の形成を目指し、利用者の利便性向上を図るため、乗継を考慮した運行日時や行き先として指定できる施設の整理等について検討する。
事業者名：(株)光タクシー 運行系統名：上部東エリア	上部東エリア		A 計画どおり事業は適切に実施された。		
事業者名：中萩タクシー(株) 運行系統名：上部西エリア	上部西エリア		A 計画どおり事業は適切に実施された。		

**【評価項目の評価基準】**

**④事業実施の適切性**

- A: 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された
- B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった
- C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

**⑤目標・効果達成状況**

- A: 事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)
- B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
- C: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月 日

協議会名:	新居浜市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市は、バス交通が利用できない地域が人口ベースで約4割と高い割合となっており、市内の移動は自動車交通に依存している。また、高齢化の進展により、今後、自動車利用のできない若しくはしない人が増加し、その人たちの移動手段の確保が重要な課題となってくる事が明らかであることから、バス交通空白地域へデマンド型乗り合いタクシーを導入し、高齢者など交通弱者のための使いやすい持続可能な公共交通網の形成を目指す。

※フィーダー系統概要 別紙①

協議事項(2)平成29年度地域公共交通バリア解消促進等事業(バリアフリー化設備等整備事業)の事業評価(案)について

別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月 日

協議会名: 新居浜市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: バリアフリー化設備等整備事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
四国旅客鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内方線付き点状ブロック設置</li> <li>・多機能トイレ設置</li> <li>・音声響案内装置及びサインの改良</li> <li>・こ線橋内2段手摺設置</li> <li>・LED発車時刻標設置</li> <li>・制御装置の取替</li> </ul>	なし	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 移動等円滑化に向けた整備目標を計画通り達成し、新居浜駅利用者の安全性及び利便性の向上が図られた。	なし

【評価項目の評価基準】

④事業実施の適切性

- A: 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された
- B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった
- C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

⑤目標・効果達成状況

- A: 事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)
- B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
- C: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)

**参考**

**デマンドタクシーの利用状況等について**

○登録者数（12月末日現在）

上部西エリア 788世帯 1,175人  
 上部東エリア 673世帯 1,028人  
 川東エリア 693世帯 1,072人 計 2,154世帯 3,275人  
 ※年齢構成 50代まで 333（10.2%） 60代以上 2,942（89.8%）

○これまでの利用状況

平成22年度 計（運行日数 56日）

エリア	末日登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	142人	86人	1.5人	91台	0.9人
上部東エリア	171人	95人	1.7人	87台	1.1人
川東エリア	76人	47人	0.8人	45台	1.0人
	389人	228人	4.1人	223台	1.0人

※利用者内訳 大人193人 障がい者35人 利用料収入 105,250円

平成23年度上半期（4月～9月） 計（運行日数 124日）

エリア	末日登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	267人	237人	1.9人	210台	1.1人
上部東エリア	231人	231人	1.9人	214台	1.1人
川東エリア	103人	158人	1.3人	138台	1.1人
	601人	626人	5.0人	562台	1.1人

※利用者内訳 大人458人 障がい者168人 利用料収入 271,000円

平成23年度下半期（10月～3月） 計（運行日数 120日）

エリア	末日登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	322人	676人	5.6人	588台	1.1人
上部東エリア	269人	569人	4.7人	500台	1.1人
川東エリア	113人	288人	2.4人	227台	1.3人
	704人	1,533人	12.7人	1,315台	1.2人

※利用者内訳 大人912人・大人割引者621人・小人0人

割引内訳 障がい者割引 本人504人・介護7人 療育割引 本人1人  
 精神保健割引 本人1人 特定疾患割引 本人33人・介護12人  
 運転免許自主返納者割引 63人

利用料収入 611,250円

平成 24 年度上半期(4 月～9 月) 計 (運行日数 125 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	351 人	1,051 人	8.4 人	767 台	1.4 人
上部東エリア	282 人	619 人	5.0 人	498 台	1.2 人
川東エリア	114 人	290 人	2.3 人	248 台	1.2 人
	747 人	1,960 人	15.7 人	1,513 台	1.3 人

※利用者内訳 大人 1052 人・大人割引者 906 人・小人 0 人・無料乳幼児 2 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 608 人・介護 21 人 療育割引 本人 4 人  
 特定疾患割引 本人 23 人・介護 5 人  
 運転免許自主返納者割引 245 人

利用料収入 752,500 円

平成 24 年度下半期(10 月～3 月) 計 (運行日数 120 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	364 人	1,198 人	10.0 人	818 台	1.5 人
上部東エリア	298 人	844 人	7.0 人	586 台	1.4 人
川東エリア	114 人	333 人	2.8 人	261 台	1.3 人
	776 人	2,375 人	19.8 人	1,665 台	1.4 人

※利用者内訳 大人 1,303 人、大人割引者 1,069 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 697 人・介護 29 人  
 療育割引 本人 13 人・介護 10 人 精神保健割引 本人 2 人  
 特定疾患割引 本人 27 人・介護 20 人  
 運転免許自主返納者割引 271 人  
 小人 1 人、小人割引者 2 人(障がい者介護)

利用料収入 919,260 円 (※小人の内 2 人は割引者：130 円で計算)

平成 25 年度上半期(4 月～9 月) 計 (運行日数 125 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	373 人	1,457 人	11.7 人	888 台	1.6 人
上部東エリア	313 人	1,116 人	8.9 人	700 台	1.6 人
川東エリア	116 人	481 人	3.8 人	360 台	1.3 人
	802 人	3,054 人	24.4 人	1,948 台	1.6 人

※利用者内訳 大人 1,624 人、大人割引者 1,430 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 1031 人・介護 41 人  
 精神保健割引 本人 3 人  
 特定疾患割引 本人 39 人・介護 13 人  
 運転免許自主返納者割引 303 人

利用料収入 1,169,500 円

平成 25 年度下半期(10 月～3 月) 計 (運行日数 119 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	631 人	2,066 人	17.0 人	1,039 台	2.0 人
上部東エリア	576 人	2,120 人	17.8 人	1,001 台	2.1 人
川東エリア	565 人	1,168 人	9.8 人	663 台	1.8 人
	1,772 人	5,354 人	45.0 人	2,703 台	2.0 人

※利用者内訳 大人 2,725 人、大人割引者 2,629 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 1,616 人・介護 160 人  
 特定疾患割引 本人 41 人・介護 23 人  
 運転免許自主返納者割引 789 人

利用料収入 2,019,750 円

平成 26 年度上半期(4 月～9 月) 計 (運行日数 125 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	683 人	2,483 人	19.9 人	1,195 台	2.1 人
上部東エリア	617 人	2,460 人	19.7 人	1,094 台	2.2 人
川東エリア	616 人	1,738 人	13.9 人	810 台	2.2 人
	1,916 人	6,681 人	53.5 人	3,099 台	2.2 人

※利用者内訳 大人 3,634 人、大人割引者 3,047 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 1,697 人・介護 167 人  
 特定疾患割引 本人 57 人・介護 27 人  
 運転免許自主返納者割引 1,099 人

利用料収入 2,578,750 円

平成 26 年度下半期(10 月～3 月) 計 (運行日数 119 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	771 人	2,639 人	22.2 人	1,211 台	2.2 人
上部東エリア	698 人	2,501 人	21.0 人	1,108 台	2.3 人
川東エリア	740 人	2,065 人	17.4 人	861 台	2.4 人
	2,209 人	7,205 人	60.8 人	3,180 台	2.3 人

※利用者内訳 大人 3,670 人、大人割引者 3,535 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 2,045 人・介護 146 人  
 療育手帳 本人 4 人 被爆者健康手帳本人 6 人  
 特定疾患割引 本人 41 人・介護 25 人  
 運転免許自主返納者割引 1,268 人

利用料収入 2,718,750 円

平成 27 年度上半期(4 月～9 月) 計 (運行日数 123 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	851 人	2,763 人	22.5 人	1,242 台	2.2 人
上部東エリア	748 人	2,671 人	21.7 人	1,196 台	2.2 人
川東エリア	786 人	1,998 人	16.2 人	878 台	2.3 人
	2,385 人	7,432 人	60.4 人	3,316 台	2.2 人

※利用者内訳 大人 3,822 人、大人割引者 3,600 人・小人 8 人・無料乳幼児 2 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 2,122 人・介護 127 人  
 療育手帳 本人・28 人 被爆者健康手帳 本人 8 人  
 特定疾患割引 本人 27 人・介護 17 人  
 運転免許自主返納者割引 1,271 人

利用料収入 2,813,000 円

平成 27 年度下半期(10 月～3 月) 計 (運行日数 120 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	920 人	3,206 人	26.7 人	1,350 台	2.4 人
上部東エリア	790 人	2,848 人	23.7 人	1,249 台	2.3 人
川東エリア	851 人	2,074 人	17.2 人	895 台	2.3 人
	2,561 人	8,128 人	67.7 人	3,494 台	2.3 人

※利用者内訳 大人 3,841 人、大人割引者 4,285 人・小人 0 人・無料乳幼児 2 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 2,386 人・介護 170 人  
 療育手帳 本人・35 人 被爆者健康手帳 本人 1 人  
 精神障がい者 本人 3 人・介護 1 人  
 戦傷病者本人 2 人・介護 2 人  
 特定疾患割引 本人 36 人・介護 20 人  
 運転免許自主返納者割引 1,629 人

利用料収入 2,991,750 円

平成 28 年度上半期(4 月～9 月) 計 (運行日数 123 日)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	973 人	3,550 人	28.9 人	1,511 台	2.3 人
上部東エリア	825 人	3,290 人	26.7 人	1,366 台	2.4 人
川東エリア	892 人	2,333 人	19.0 人	1,048 台	2.2 人
	2,690 人	9,173 人	74.6 人	3,925 台	2.3 人

※利用者内訳 大人 3,891 人、大人割引者 5,282 人・小人 0 人・無料乳幼児 0 人

割引内訳 障がい者割引 本人 2,440 人・介護 131 人 療育手帳 本人 17 人  
精神障がい者 本人 5 人 特定疾患割引 本人 61 人・介護 40 人  
運転免許自主返納者割引 2,588 人

利用料収入 3,266,000 円

平成 28 年度下半期(10 月～3 月) (運行日数 平日 120 日、土曜日 24 日)

※運行日数は 132 日で計算 (土曜日を半日換算)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	1,028 人	3,506 人	24.3 人	1,518 台	2.3 人
上部東エリア	883 人	3,713 人	25.8 人	1,520 台	2.4 人
川東エリア	952 人	2,476 人	17.2 人	1,126 台	2.2 人
	2,863 人	9,695 人	67.3 人	4,164 台	2.3 人

※利用者内訳 大人 4,232 人、大人割引者 5,463 人・小人 0 人・無料乳幼児 0 人

割引内訳 障がい者割引 本人 2,201 人・介護 159 人 精神障がい者 本人 3 人  
被爆者健康手帳本人 1 人 特定疾患割引 本人 54 人・介護 23 人  
運転免許自主返納者割引 3,022 人

利用料収入 3,481,750 円

平成 29 年度上半期(4 月～9 月) (運行日数 平日 124 日、土曜日 25 日)

※運行日数は 136.5 日で計算 (土曜日を半日換算)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	1,080 人	3,883 人	26.1 人	1,593 台	2.4 人
上部東エリア	919 人	4,250 人	28.5 人	1,653 台	2.6 人
川東エリア	986 人	2,458 人	16.5 人	1,169 台	2.1 人
	2,985 人	10,591 人	71.1 人	4,415 台	2.4 人

※利用者内訳 大人 4,057 人、大人割引者 6,534 人・小人 0 人・無料乳幼児 0 人

割引内訳 障がい者割引 本人 2,733 人・介護 185 人 精神障がい者 本人 8 人  
戦傷病者 本人 1 人 特定疾患割引 本人 87 人・介護 31 人  
運転免許自主返納者割引 3,489 人

利用料収入 3,662,000 円

平成 29 年度下半期(10 月～3 月) (運行日数 平日 120 日、土曜日 24 日)

※運行日数は 132 日で計算 (土曜日を半日換算)

エリア	末日登録者数	利用者数	1 日利用者数	運行台数	1 台利用者数
上部西エリア	1,120 人	3,517 人	26.6 人	1,520 台	2.3 人
上部東エリア	952 人	3,768 人	28.5 人	1,527 台	2.5 人
川東エリア	1,017 人	2,485 人	18.8 人	1,180 台	2.1 人
	3,089 人	9,770 人	74.0 人	4,227 台	2.3 人

※利用者内訳 大人 3,615 人、大人割引者 6,155 人・小人 0 人・無料乳幼児 0 人

割引内訳 障がい者割引 本人 2,524 人・介護 229 人 精神障がい者 本人 10 人  
特定疾患割引 本人 65 人・介護 28 人  
運転免許自主返納者割引 3,299 人

利用料収入 3,346,250 円



平成 30 年度上半期(4 月～9 月)

(運行日数 平日 124 日、土曜日 24 日)

※運行日数は 136 日で計算 (土曜日を半日換算)

エリア	末日登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	1, 161人	3, 425人	25. 2人	1, 555台	2. 2人
上部東エリア	1, 017人	3, 867人	28. 4人	1, 564台	2. 5人
川東エリア	1, 057人	2, 602人	19. 1人	1, 337台	1. 9人
	3, 235人	9, 894人	72. 8人	4, 456台	2. 2人

※利用者内訳 大人 3,582 人、大人割引者 6,312 人・小人 0 人・無料乳幼児 0 人  
 割引内訳 障がい者割引 本人 2,297 人・介護 158 人 精神障がい者 本人 5 人  
 特定疾患割引 本人 43 人・介護 29 人  
 運転免許自主返納者割引 3,780 人  
 利用料収入 3,369,000 円

※平成30年10月以降月別利用者数

平成30年10月（運行日数 平日22日 土曜日4日）

エリア	登録者数	利用者数	運行台数
上部西エリア	1,167人	597人	279台
上部東エリア	1,022人	744人	291台
川東エリア	1,063人	451人	250台
	3,252人	1,792人	820台

※利用者内訳 大人641人 小人0人 無料乳幼児0人  
 障がい者割引 本人425人・介護35人 療育手帳 本人3人  
 特定疾患割引 本人9人・介護5人 運転免許自主返納者割引 674人

利用料収入 608,250円

(平日)

エリア	登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	1,167人	540人	24.5人	251台	2.2人
上部東エリア	1,022人	662人	30.1人	259台	2.6人
川東エリア	1,063人	411人	18.7人	229台	1.8人
	3,252人	1,613人	73.3人	739台	2.2人

(土曜日)

エリア	登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	1,167人	57人	14.3人	28台	2.0人
上部東エリア	1,022人	82人	20.5人	32台	2.6人
川東エリア	1,063人	40人	10.0人	21台	1.9人
	3,252人	179人	44.8人	81台	2.2人

平成30年11月（運行日数 平日21日 土曜日3日）

エリア	登録者数	利用者数	運行台数
上部西エリア	1,173人	578人	260台
上部東エリア	1,025人	654人	277台
川東エリア	1,068人	440人	252台
	3,266人	1,672人	789台

※利用者内訳 大人603人 小人0人 無料乳幼児0人  
 障がい者割引 本人400人・介護25人  
 特定疾患割引 本人7人・介護5人 運転免許自主返納者割引 632人

利用料収入 568,750円

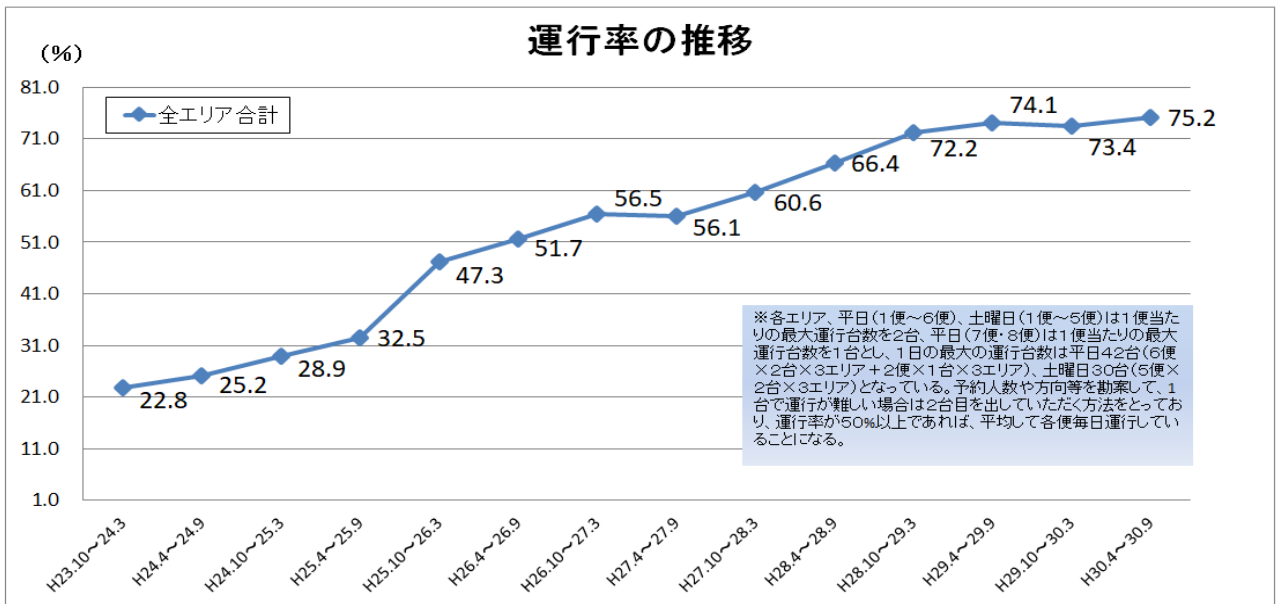
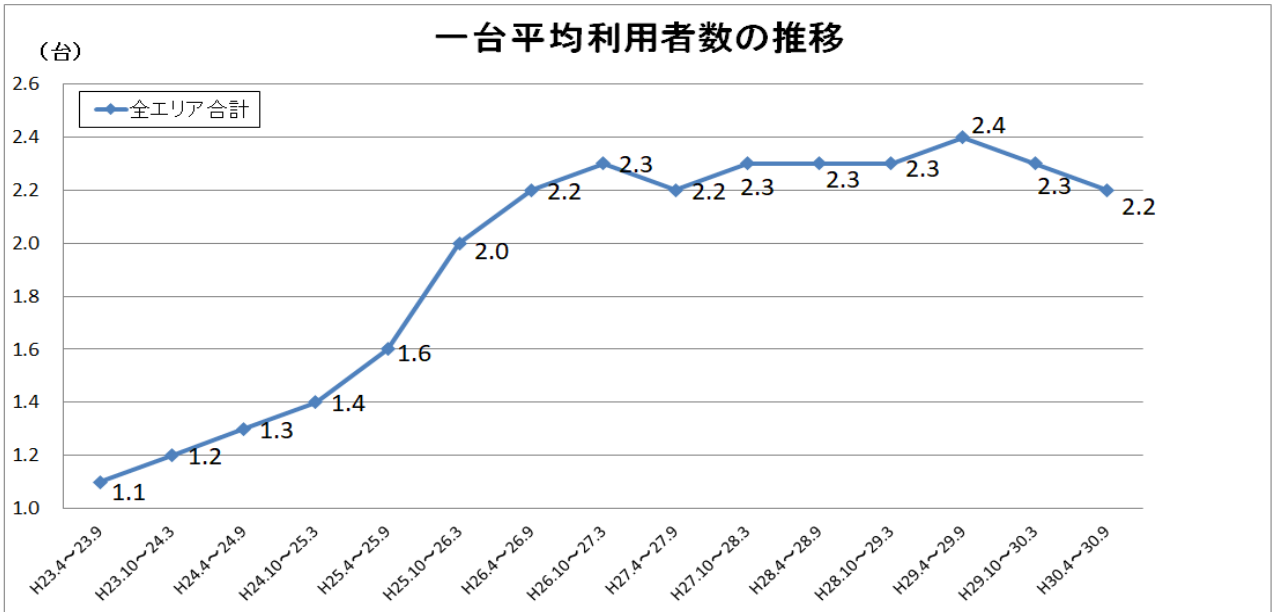
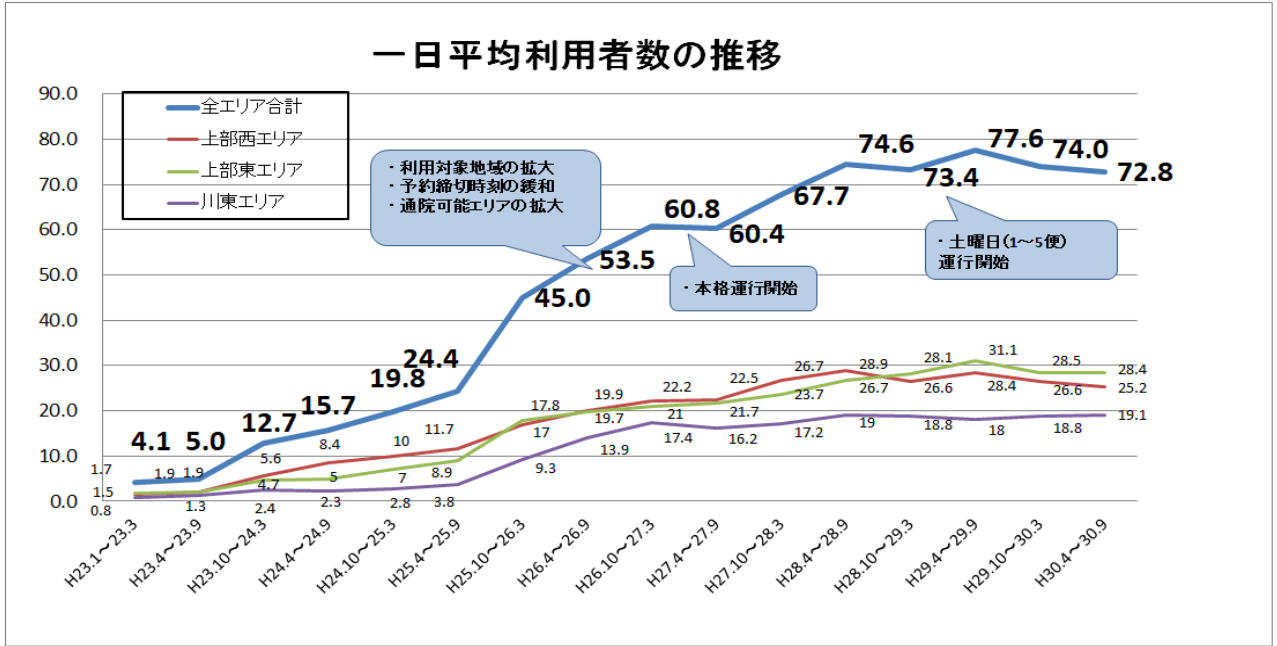
(平日)

エリア	登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	1,173人	543人	25.9人	241台	2.3人
上部東エリア	1,025人	594人	28.3人	252台	2.4人
川東エリア	1,068人	412人	20.0人	234台	1.8人
	3,266人	1,549人	73.8人	727台	2.1人

(土曜日)

エリア	登録者数	利用者数	1日利用者数	運行台数	1台利用者数
上部西エリア	1,173人	35人	11.7人	19台	1.8人
上部東エリア	1,025人	60人	20.0人	25台	2.4人
川東エリア	1,068人	28人	9.3人	18台	1.6人
	3,266人	123人	41.0人	62台	2.0人

デマンドタクシーこれまでの利用状況（平成23年1月～平成30年9月）



## 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（抜粋）

### 第1編 共通事項

（目的）

第1条 この補助金は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段が提供され、また、バリアフリー化やより制約の少ないシステムの導入等移動に当たっての様々な障害の解消等がされるよう、地域公共交通の確保・維持・改善を支援することを目的とする。

（定義等）

第2条 この要綱において、次に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 「生活交通確保維持改善計画」とは、地域公共交通の確保・維持・改善のために、都道府県、市区町村、交通事業者若しくは交通施設の管理者等からなる協議会（以下「協議会」という。）又は都道府県若しくは市区町村が、地域の生活交通の実情のニーズを的確に把握しつつ、当該協議会での議論を経て策定する地域の特性・実情に応じた最適な移動手段の提供、バリアフリー化やより制約の少ないシステムの導入等移動に当たっての様々な障害の解消等を図るための取組についての計画をいう。
- 二 「地域公共交通確保維持事業」とは、地域公共交通の存続が危機に瀕している地域において地域の特性・実状に最適な交通手段を確保・維持するために生活交通確保維持改善計画（当該計画に代えて策定される地域間幹線系統確保維持計画、地域内フィーダー系統確保維持計画及び離島航路確保維持計画及び離島航空路確保維持計画を含む。）に基づいて実施される事業をいう。

（協議会）

第3条 前条第1項第一号の協議会は、以下の者によって構成される。

- 一 関係する都道府県又は市区町村
- 二 関係する交通事業者又は交通施設管理者等
- 三 地方運輸局（神戸運輸監理部及び沖縄総合事務局を含む。以下「地方運輸局等」という。）又は地方航空局
- 四 その他地域の生活交通の実状、その確保・維持・改善の取組に精通する者等協議会が必要と認める者

（中略）

- 5 協議会は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

## 地域公共交通確保維持改善事業実施要領（抜粋）

### 7. 事業評価について

#### （1）事業評価の実施

##### ①自己評価（一次評価）

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認、評価（以下「自己評価」という。）を行い、当該自己評価の結果を、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業にあっては、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、地域公共交通バリア解消促進等事業にあっては、補助金の交付を受けた会計年度の翌年度の1月末までにそれぞれ協議会から、地方運輸局、神戸運輸監理部、地方航空局又は沖縄総合事務局（以下「地方運輸局等」という。）に報告するとともに、公表することとする。

##### ②二次評価

###### ア．実施対象

バリアフリー化設備等整備事業及び鉄道軌道安全設備等整備事業を除く各事業については、自己評価（一次評価）等を基に二次評価を行うこととする。

###### イ．実施方法

二次評価を実施する際には、当該評価の客観性・妥当性を担保するため、地方運輸局等に各担当部長等及び学識経験者等の有識者からなる第三者評価委員会を設置することとし、当該委員会においては、地方運輸局等が作成した二次評価案等について審議する。地方運輸局等においては、その結果を踏まえて評価を実施することとする。

地方運輸局等は、協議会に対して当該二次評価結果を通知するとともに、必要に応じて、事業計画の見直し等を求め、協議会では、二次評価の結果を踏まえ、必要に応じて確保維持改善計画、後続事業又は地域の取組等に反映させる。

二次評価の結果を含む事業評価の結果について、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業にあっては補助金の交付を受けようとする会計年度の2月末までに、地域公共交通バリア解消促進等事業（利用環境改善促進等事業）にあっては補助金の交付を受けた会計年度の翌年度の2月末までに、それぞれ地方運輸局等から国土交通省総合政策局へ提出することとする。

## 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目（抜粋）

### 1. 事業評価の目的

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価は、協議会が、生活交通確保維持改善計画（交付要綱の規定に基づき、生活交通確保維持改善計画に代えることができる各種計画を含む。以下同じ。）に位置付けられた補助対象事業等について、事業の性質に応じ、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的、効率的に推進されることを目的とする。

### 2. 評価項目

- (1) 地域公共交通確保維持事業（離島航路構造改革事業に係る調査事業を除く。）及び地域公共交通バリア解消促進等事業

地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通バリア解消促進等事業（以下「生活交通確保維持改善計画に基づく事業」という。）の評価については、運行系統、離島航（空）路、設備等の別ごとに、以下の評価項目について実施することを原則とするが、下記③について、生活交通確保維持改善計画において複数の運行系統、設備等を包括して目標・効果が記載されている場合は、事業の性質に応じ、当該複数運行系統、設備等を包括的に評価することができるものとする。

(中略)

#### ①前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況

過去に実施した類似事業又は先行事業の評価結果を反映させた場合は、その事業評価結果をどのように反映させたのかを明らかにすること。

#### ②事業実施の適切性

生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施された（されている）か、評価を行うこと。計画どおり実施されなかった（されていない）場合には、理由等を明らかにすること。

#### ③生活交通確保維持改善計画における目標・効果の達成状況

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成された（達成できる見込み）か、設定した目標ごとに分析を行うこと。目標・効果が達成できなかった（達成できない見込み）場合には、理由等を分析の上明らかにすること。

#### ④事業の今後の改善点

実施した事業について改善点があるかどうかを、事業の目的の達成状況を考慮した上で検証すること。

必要に応じて、上記の検証結果を踏まえて地域における今後の取り組みでの具体的な改善策（又は改善の方向性）を検討すること（改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く検討すること）。特に、地域公共交通確保維持事業においては、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映さ

せるか、方向性又は具体的な内容を検討すること。

併せて、より適切な目標設定について検討すること。

### 3. 事業評価

#### (1) 自己評価（一次評価）の報告

実施要領7. (1) ①に定める地方運輸局等への評価の報告については、別添1に掲げる様式に基づいて実施するものとする。

この場合において、地域公共交通確保維持事業（離島航路構造改革事業に係る調査事業を除く。）又は地域公共交通バリア解消促進等事業（利用環境改善促進等事業に限る。）に係る評価を実施している協議会にあっては、別添1－2に掲げる様式に基づいて、当該協議会が生活交通確保維持改善計画に掲げる地域の交通の目指す姿（利用環境改善促進等事業において生活交通確保維持改善計画に代えて生活交通改善事業計画を策定している場合にあつては、事業実施の目的・必要性。）を報告するものとする。ただし、当該報告は二次評価の実施対象とはしない。

## 新居浜市基礎データ

- 平成15年4月に宇摩郡別子山村を編入合併
- 人口 11万9,903人(平成27年10月現在)
- 面積 234.46平方キロメートル

## 新居浜市における主な公共交通概要

新居浜市内のバス路線は、他市からの乗り入れ路線と市内のみの路線があり、新居浜駅と住友別子病院を結節点として、路線網が形成されている。したがって、新居浜駅から、公共施設や病院・商業施設が集積している中心市街地内のバス路線は便数も多く、比較的利便性が高いが、周辺部から中心市街地に移動する場合、結節点である新居浜駅までのバス路線は便利とは言えない状況となっている。さらに、バス交通を利用できない地域は人口ベースで約4割と高い割合となっており、市内の移動は自動車交通に依存している。また、高齢化の進展により、今後、自動車利用のできない若しくはしない人が増加し、その人たちの移手段の確保が重要な課題となってくることが明らかであることから、既存バスルートの見直しや、周辺部のバス交通空白地域から新居浜駅までをつなぐ新たな公共交通(デマンド型乗り合いタクシー)を導入し、高齢社会に対応し、高齢者などの交通弱者のための市内公共交通体系の確保に努めている。デマンド型乗り合いタクシーについては、平成23年1月から試験運行を実施、平成26年10月からは本格運行に移行しており、現在も、改良・改善を加えながら運行を実施している。

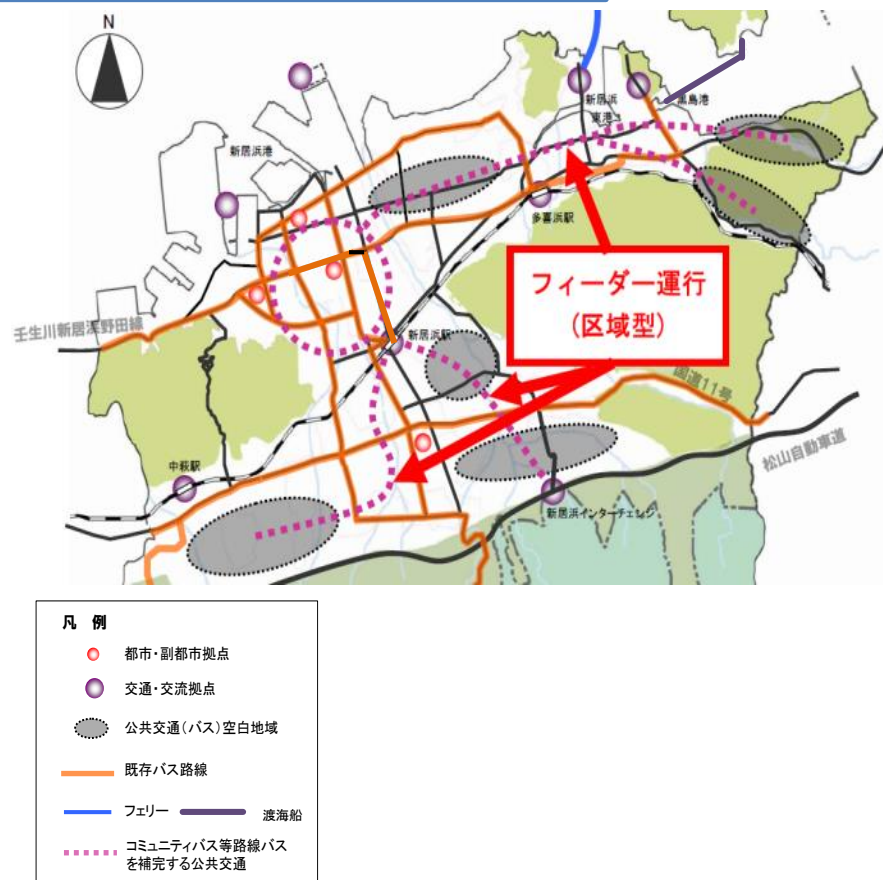
### ○バス

- (幹線)
- 新居浜駅を起点として、市内の主要な施設を經由する民間事業路線(フィーダー)
- バス交通空白地域から新居浜駅等まで結ぶデマンド型乗り合いタクシー
- (その他)
- 別子山地域から中心市街地までを結ぶコミュニティバス

## 地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

## 新居浜市の公共交通ネットワーク図





# 新居浜市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統  
事業評価(平成30年度)

## 協議会の構成員

愛媛県 新居浜市 新居地区旅客自動車協同組合 愛媛県ハイヤー・タクシー協会  
瀬戸内運輸(株) 愛媛県バス協会 四国旅客鉄道(株) 新居浜警察署  
新居浜市連合自治会 新居浜市老人クラブ連合会 新居浜市女性連合協議会  
新居浜市社会福祉協議会 新居浜商工会議所 新居浜市医師会  
瀬戸内運輸労働組合 四国運輸局愛媛運輸支局 四国地方整備局松山河川国道事務所

## 前年度の事業評価における課題

利用者数を維持していくため、積極的な広報や説明会を行うとともに、運行日や行き先として指定できる施設の整理等について検討する。

## 定量的な目標・効果

川東エリア、上部東エリア、上部西エリアの合計

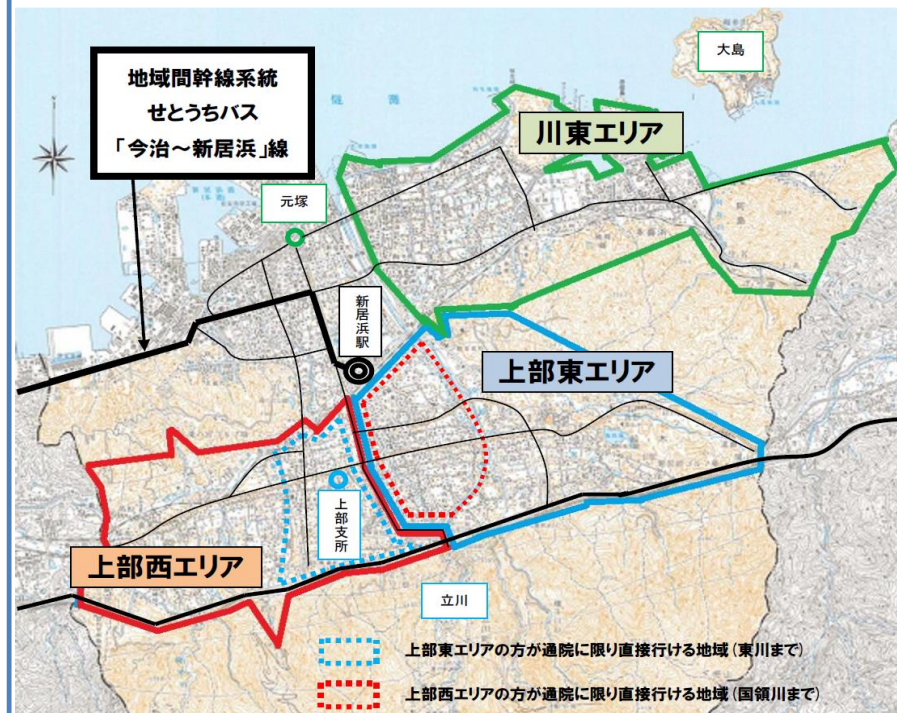
(目標)

・一日当たりの利用者数64人、一台当たりの利用者数2.3人、  
運行率60%以上を目標とする。

(効果)

・デマンド型乗り合いタクシーを運行することにより、バス交通空白地域の解消が図られるとともに、高齢者などの交通弱者の通院や買い物の移動手段を確保し、誰もが便利に使える公共交通が構築される。

## フィーダー系統図



## 「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・デマンド型乗り合いタクシーの利用促進のため、申し出のあった団体に対し説明会(出前講座)を実施し、要望等ヒアリングを行った。
- ・協議会を(平成29年10月から30年9月の間)4回開催し、下記の項目について協議を行った。
  - (平成29年12月1日) 新居浜市地域公共交通網形成計画の策定について
  - (平成30年1月19日) 29年度補助事業に係る事業評価について
  - (平成30年3月27日) 30年度事業計画等について
  - (平成30年6月22日) 生活交通確保維持改善計画について

## 自己評価

### 事業実施の適切性

- ・川東エリア、上部東エリア、上部西エリアともに、デマンド型乗り合いタクシーの運行により、高齢者などの交通弱者の通院や買い物の移動手段が確保されており、生活交通確保維持改善計画に基づく事業が、適切に実施された。

### 「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・平成29年10月から平成30年9月までの一日当たりの利用者数は、64人の目標に対し73.4人、一台当たりの利用者数は2.3人の目標に対し2.3人、運行率は60%の目標に対し74.3%であり、計画に位置付けられた目標を達成している。(川東エリア、上部東エリア、上部西エリアの合計)  
したがって、デマンド型乗り合いタクシーの運行により、バス交通空白地域の解消が図られるとともに、高齢者などの交通弱者の通院や買い物の移動手段が確保されている。

## 今後の事業に向けた改善点

- 使いやすい持続可能な公共交通網の形成を目指し、利用者の利便性向上を図るため、乗継を考慮した運行日時や行き先として指定できる施設の整理等について検討する。
- 利用者を維持していくため、市広報誌等において繰り返し広報を行うとともに、出前講座等を実施する。

## その他PRポイント

- 平成29年度末に策定した「新居浜市地域公共交通網形成計画」を推進するため、利用者等の意見を反映しながら、使いやすい持続可能な公共交通網の形成を目指していきたい。